

くも膜のう胞



子ども達に「勇気、夢として笑顔」を

くも膜のう胞

頭蓋内にできるのう胞性疾患の一つで、
うすい膜に包まれた髄液の袋ができる病気です。
先天性のものと外傷や髄膜炎後に形成された
後天性のものとがあります。

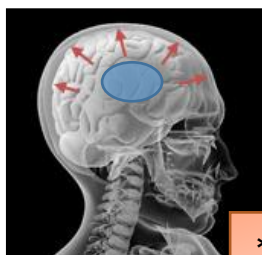
【症状】

小さなものは、ほとんど無症状です。

大きいものでは、脳組織や周囲の組織を圧迫することにより症状が出る場合があります。

頭痛や嘔気などの

のうあつこうしん
脳圧亢進症状*を呈します。



* 脳圧の亢進：
脳内の圧力が高まること



また、幼児の場合、頭囲の拡大や変形、
発達障害をおこすことがあります。

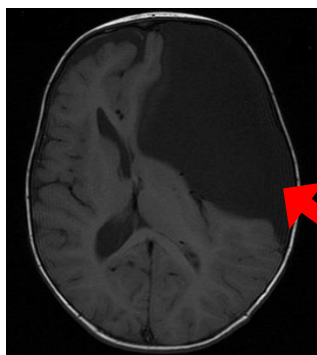
【診断】

出生前に胎内で診断されることがあります。

一般的には、出生後に

CT・MRI 検査で診断されます。

新生児期・乳児期に診断されたくも膜のう胞は、時に**進行性に拡大する事がある**ので経過観察が必要です。



くも膜のう胞の MRI :
脳を強く圧迫する巨大な
髄液の袋があります。

【治療】

ある程度の大きさがあり周囲の組織を圧迫しているものや、進行性に拡大するものは、治療が必要で、一般的には手術となります。

開頭してくも膜のう胞の被膜に穴をあける**開窓術**や、神経内視鏡にて、くも膜のう胞の被膜に小さな穴をあける神経内視鏡的開窓術、のう胞液をチューブで腹腔に流す**のう胞腹腔シャント術**が行われます。成人では、ほとんど治療対象とはなりません。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

＜脳神経外科＞

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605